

## 翌年のナシ黒星病の発生を防ぐため、 落葉処理を実施し、伝染源の低減に努めましょう。

- 令和3年の発生状況は平年に比べやや少ない発生でしたが、10月下旬の巡回調査の結果(図1)、黒星病の秋型病斑の発生が複数の園地で確認されました。
- 黒星病の翌年の第一次伝染源は、年内に罹病葉から感染したりん片病斑(図2)と、秋型病斑を形成した落葉(図3)です。
- 秋季防除により、りん片への感染対策を行った園地でも、落葉後に落葉処理を実施し(図4)、翌年の伝染源の低減に努めましょう。

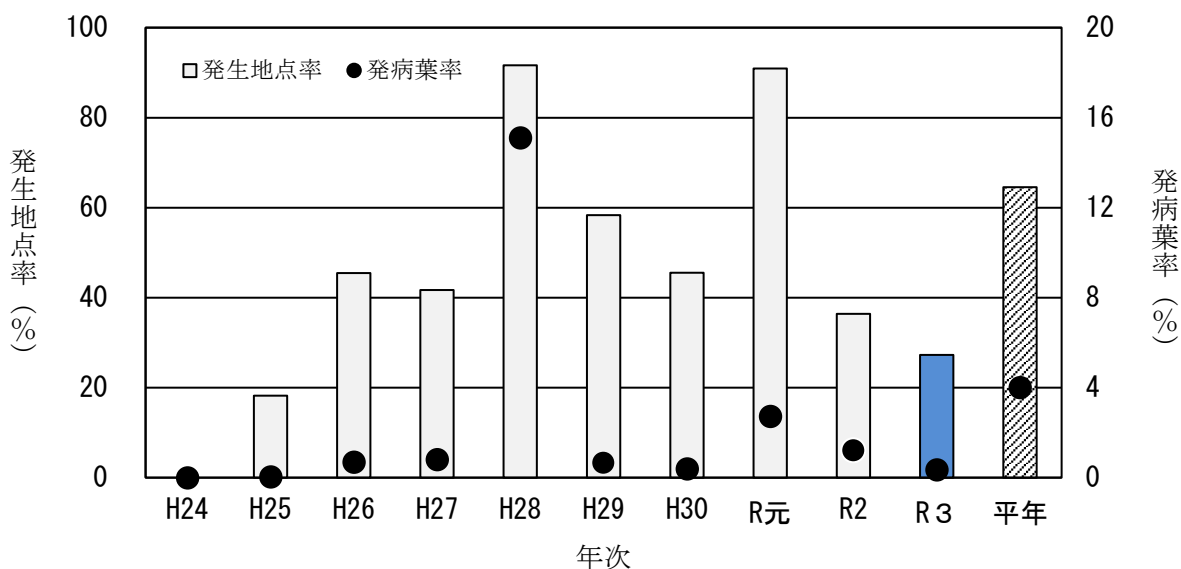


図1 10月下旬における黒星病(秋型病斑)の発生状況

注) 平年値は過去9か年

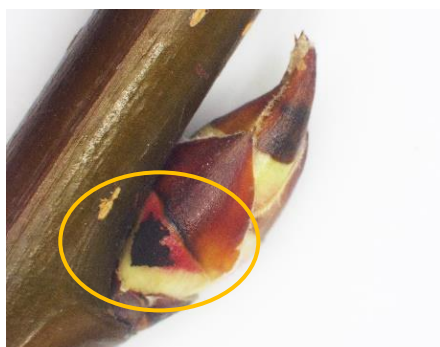


図2 りん片病斑



図3 秋型病斑(葉裏に発生する薄しみ状の病斑)

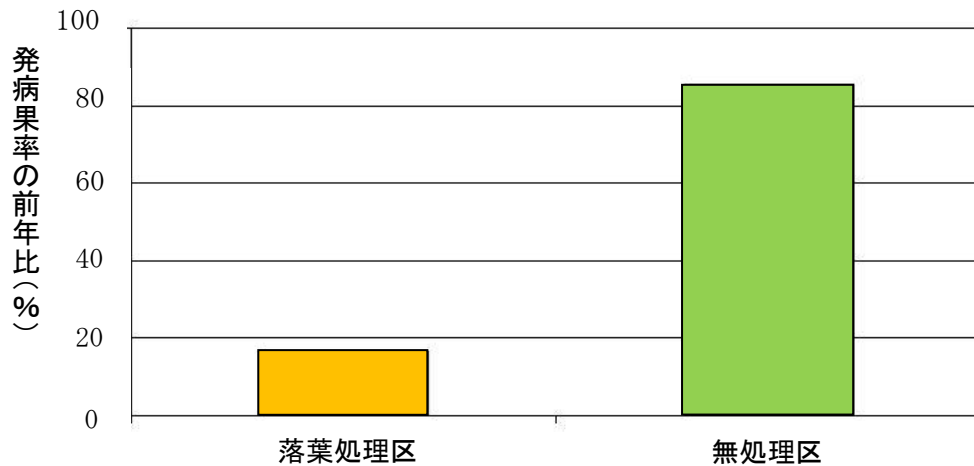


図4 落葉処理後の果実における黒星病の前年発生比(A町・平成29年)

注1) 落葉処理区:ロータリーによる落葉処理を実施(平成28年)

注2) 品種は豊水,平成28年(処理前)及び同29年(処理後)の7~8月の発病果率の比較

注3) 両区ともに薬剤散布は現地慣行で実施

(宮城県農業・園芸総合研究所)

## 防除のポイント

### 落葉処理の実施

- ・落葉処理を実施することで、翌年の子う胞子の飛散量が減少し、栽培期間を通して黒星病の発生が抑制されます。
- ・完全に落葉した後に、園内の落葉を集めて土中に埋めたり、ロータリー耕によるすき込みや園外に持ち出す等、適切に処分しましょう。モア等で落葉を粉砕することも有効です。

参考「普及に移す技術 第94号参考資料13」<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/735200.pdf>

### ー農薬の適正使用についてー

- 1 ラベルに記載されている適用作物, 使用時期, 使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い, 適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には, 防除器具を点検し, 十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し, 周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し, 使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては, 最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

### 《お問い合わせ先》

#### 宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)